PONY ポニーリーグ

パインプランニングカップ 関東地区1年生大会

市原 猛打で公式戦初V

◇7月11日 ◇準決勝、決勝◇千葉・市原能満球場

決勝で市原が羽田アローズジュニアを12―0で破り優勝した。予選リーグを5戦全勝で通過した市原は、決勝トーナメント初戦の準々決勝で小平・湘南戦を11―1、準決勝の江東A戦も9―2と圧勝。決勝の羽田戦でも13安打12得点で頂点をつかんだ。

3投手完封リレー

市原打線が序盤から全開した。1回、鹿倉隆志主将の適時打と相手バッテリーの失策などで2点を先制すると、2回には白鳥優斗のランニング本塁打で3点目。相手投手が制球に苦しむところを突き、この回に4四球3安打、打者一巡で6点を奪った。さらに3回に1点、5回にも3点を加えリードを広げた。守っては、團春樹―鈴木煌世―佐々木悠晴のリレーで羽田打線を2安打に封じた。

準決勝は細野殊勲

準決勝の江東A戦は序盤に2点を先制される苦しい展開だった。流れを市原に引き寄せたのは、5回、代打の細野翔の右中間への三塁打だった。細野の一打で打線に火が付き、この回3本の安打などで5点を奪い逆転に成功。6回にも4点を追加し試合を決めた。

那須勇元監督（51）は「準決勝で細野の三塁打が大きかった。このひと振りに尽きる。スタメンの選手だけでなく、代打の細野が結果を出してくれた。決勝でランニング本塁打を打った白鳥もレギュラー争いをしている1人。全員野球でよく頑張ってくれた」と選手をたたえた。

主将で3番の鹿倉捕手は準決勝で逆転適時三塁打、決勝では先制適時打を放つ活躍で、最優秀選手賞を獲得。「準決勝はみんなでつないで逆転できた。その勢いで決勝もたくさん打てました。公式戦で初優勝できてとてもうれしいです」と笑顔で話した。

この大会で自信をつけた市原は、7月下旬の全日本選手権ブロンコ大会で決勝進出。佐賀ビクトリー球団に敗れたが、全国レベルを経験できた。今後の大会で全国の頂点へ挑む。

全員野球できた 猛打で関東地区1年生大会を制した市原ポニージュニア

最優秀選手賞・鹿倉

殊勲賞・團

最優秀投手賞・宮川

◆表彰選手

▽最優秀選手賞・鹿倉隆志（市原）

▽最優秀投手賞・宮川颯汰（市原）

▽殊勲賞・團春樹（市原）、西村貫汰（羽田）

▽敢闘賞・石月塁（江東A）、鈴木泰煌斗（千葉）

関東地区秋季コルト大会予選リーグ出場チーム

Aブロック	栃木・宇都宮ポニー 市川南マリーンズ 横浜港北ポニー 江戸川EASTポニー 墨田ポニー
Bブロック	横浜旭峰ポニー 清瀬コルトポニー つくばJ Warriors 江東ライオンズコルト 流山・立川・SK
Cブロック	埼北コルトウィンズ 小平湘南ポニー 三鷹中央BBC 将門BBC 羽田アンビシャスコルト
Dブロック	北千葉ポニー 千葉ジャガーズ 慶友レボリューション 市原ポニー 江東タイヨーコルト

（注）BBCはベースボールクラブの略

関東地区秋季コルト大会予選リーグ出場チーム

	Aリーグ	Bリーグ
Aブロック	墨田ポニー 小平ポニーズ 羽田アンビシャス 松戸市川ポニー 慶友レボリューション 千葉ジャガーズ	Eブロック 横浜港北ポニー 羽田アローズ 清瀬BBC つくばJWarriors SKポニー 市原中央ポニー
Bブロック	北千葉ポニー 太田翔洋硬式野球C 江東ライオンズ 埼北ウィンズ 市川南マリーンズ 墨田ファルコン	Fブロック 慶友ポニー 栃木南・新東京 東葛中央ポニー さいたまポニー 埼北ペガサス 香取ピグレッツ
Cブロック	千葉メッセマリーンズ 横浜旭峰ポニー 市原ポニー 香取ポニー 飯能ポニー つくば中央ポニー	Gブロック 千葉ポニー 茅ケ崎ブラックキャップス 江東スターズ 三鷹中央BBC 市原八幡ポニー EAST東京W
Dブロック	江東タイヨー 湘南クラブ 将門BBC 清瀬ポニーズ 埼北ウィンズJ.r EAST東京パイレーツ	Hブロック 北千葉ポニーBC 立川ポニー 清瀬フェニックス 江東ポニーズ 埼北ペガサスJ.r

白鳥ランニング本塁打

2回裏、ランニング本塁打でホームへ滑り込む市原ポニージュニアの白鳥優斗（右）

パインプランニングカップ関東地区1年生大会決勝トーナメント

江東A	7	2
SKポニー	6	
市原ポニージュニア	11	12
小平・湘南	1	9
つくばJウォリーアーズジュニア	3	3
羽田アローズジュニア	4	0
江東B	4	2
千葉ジャガーズジュニア	8	

優勝 市原ポニージュニア

羽田アローズジュニア悔しい準優勝

羽田アローズジュニアは決勝で悔しい大敗となった。投手陣が13安打を浴び12失点。打線は4回に四球と今村龍成の左前打、浅野夏希の内野安打で2死満塁の得点機を作ったが、あと1本が出なかった。

決勝トーナメントの準々決勝、準決勝はともに1点差を制して勝ち上がってきた。エース西村貫汰は、粘りの投球でチームをけん引し殊勲賞を受賞した。堅守を見せた捕手・山本祐大や二遊間コンビの竹内一達と山根碧、中堅の小山新らが光った。センターラインに合格点を与えた柴谷幸夫監督（51）は、決勝こそ本来の力を出し切れなかったが、道具の準備や心の準備など、試合に対する準備の必要性が身についてきたことが収穫です」と話した。

惜しくも準優勝の羽田アローズジュニア

関東地区秋季大会とコルト大会が開幕

新チームとして初の公式戦となる「第45回関東地区秋季大会」と、1年生による「秋季コルト大会」が8月29日開幕した。秋季大会には47チームが出場。8ブロックに分かれリーグ戦を行い、上位16チームが決勝トーナメントへ進出する。コルト大会は20チームが4ブロックに分かれリーグ戦を戦い、上位12チームが決勝トーナメントへ進む。ともに来春の全日本選抜大会へ向けての試金石となる。

コロナ対策徹底

日本ポニーベースボール協会では、今夏も徹底した新型コロナウイルス感染防止対策を施した上で大会開催に臨んだ。

関東1年生大会の決勝トーナメント、全日本選手権ポニー大会、理事長杯大会、全日本選手権ポニーブロンコ大会では全ての来場者に試合前、抗原検査を行った。試合会場では、体温測定を行いながら人の出入りを迅速にするため、球場の出入り口には通過しながら体温測定ができ、顔認証も行えるAIセキュリティーゲートを設置した。

秋の大会でも引き続き万全の感染拡大防止対策を施していく。